

川崎市文化協会会長賞受賞作品

消滅せまる!?活字文化の危機

東小倉小学校 6年生 田中 ひより

夜の世界が美しく変わる魔法の世界、動物が潜むジャングルの世界…。こんな世界に行ったことがありますか？私は行ったことがあります。本を読んで。現実ではありえないたくさんの世界。私はこの世界を幼いころから楽しんできました。

一ページめくるとまた変わるおもしろさ。独特なあの本の匂い。紙の感触。このようなことが今、消えようとしているのです。

これは活字文化が消えるという意味です。コロナの影響で家で過ごすことが多くなり、スマホ・パソコンなどで読書をする人が増え、紙の本、つまり活字文化が消えかかっているのです。

活字文化が消えるとなると同じく消えてしまう所があります。それは…図書館です。紙の本が大好きな私にとって図書館は宝の山です。そんな場所に今、危機がせまっています。図書館、活字文化を守るためどんな対策が行われているか調べてみました。

図書館で本を借りるときは貸し出しカードが必要です。カードを使うと発行したその日から借りることができ、カードで借りることで面倒な作業をしなくて済むのです。

さらに図書館は他にも工夫をしています。その一つが「図書返却ボックス」です。返却ボックスは様々な駅に置いてあるのでわざわざ図書館に返しにいかなくても最寄り駅の返却ボックスに返すことができます。そうすることで本をより借りやすく、返しやすくなるのです。

このように川崎市の図書館はたくさんの工夫をして活字文化を守ろうとしています。

文字・活字文化の地名度を上げるために、このような取り組みもあります。それは「朝の読書大賞」と「文字・活字文化推進大賞」です。

朝の読書大賞は朝の読書に力を入れた学校に贈られる賞で、文字・活字文化推進大賞は文字・活字文化に貢献した学校・自治体などに贈られる賞です。

このような賞をつくり、発信することで色々な県・市が読書活動に取り組むようになるのです。

十月二十七日～十一月九日に何があるか、知っていますか？この期間には読書週間と、かわさき読書の日があります。そして読書週間には学校・図書館も取り組みをしています。

小・中学校では図書委員会を中心に本を読みたくなる活動をしています。私の小学校では読書週間に限らず、下級生への絵本の読み聞かせ・人気の本を伝える動画

作りなどの取り組みをしています。

川崎の図書館では「読書のまち・かわさき」というコンセプトのもと色々な催しものを行っています。かわさき読書の日には「かわさき読書の日のつどい」や図書館以外の場所でも「川崎フロンターレと本を読もう！」というイベントなどをして読書に楽しく親しめる、読書週間に取り組んでいます。

今、消えようとしている活字文化と紙の本。これを守るため、多くの団体が多くの取り組みをしています。そして私も紙の本を守れる一人です。調べていく中でこの「読書のまち・かわさき」で活字文化・紙の本を守る、そう思いました。

今も、これからの将来も活字文化を守れる一員になりたい。そんな願いをもちながら、私は取り組んでいきます。とにかく今はたくさんの本を読む。そしてその分、たくさん知識を頭に入れて紹介したような活動に参加できる大人になりたいです。私が生まれ育ったこの「読書のまち・かわさき」で。

この夢、そして願いを叶えるためには様々な職業があります。図書館司書や出版社、作家に漫画家、小説家…。仕事にしなくても、子どもへの読み聞かせやブックボランティアなども活字文化を守れる一つの方法です。そう思うと活字文化を守れる活動はたくさんあります。私の未来と活字文化の未来は今、無限大に広がっていきます!!